

孝子桜

城山西小学校の校庭に咲く樹齢約450年のしだれ桜で、宇都宮市指定天然記念物。父を看病しながら、畑や山仕事をしていた幸助という子どもの民話があります。寝たきりの父が「桜が見たい」というので、木の下に来ては、「おねげえだ。一日でいいから、桜の花を咲かせてください」と寒い冬の日なのに、毎日祈り続けていたと……。親孝行のお話（語説あります）。

越路岩

姿川が東向きから南向きに方向を変える場所にある独立奇岩。陸の松島とも言われる北の位置にあり、特に国道293号線から田植え時期の水の張った田に映し出される風景は素晴らしいです。「田植えが出来た。今年も豊作でありますように」と祈りたくなります。国指定名勝。

景観公園

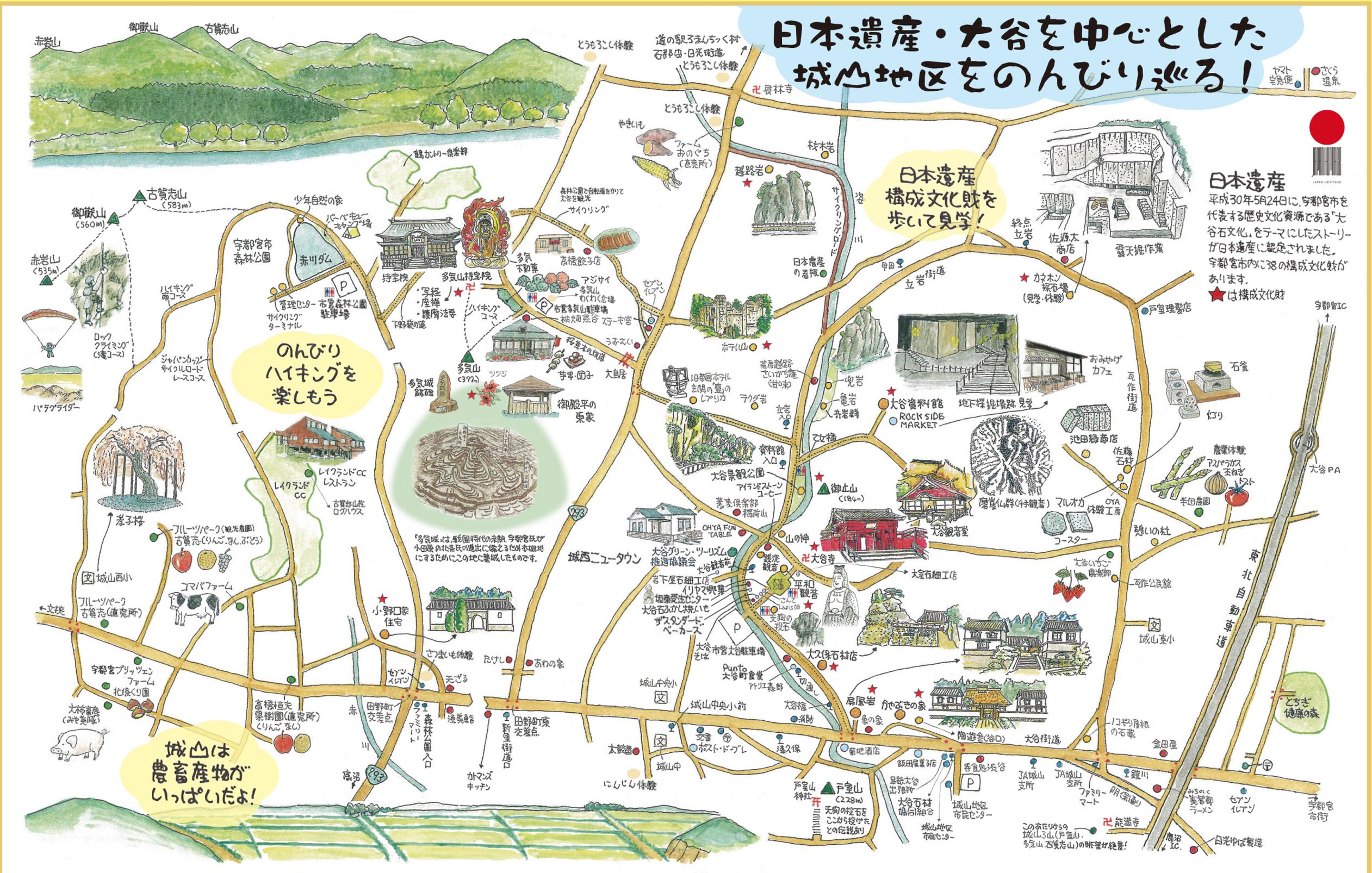
大きな岩の間の谷あいから「大谷」という名称が生まれています。この地に立てばなるほど「おおや」だなど分かります。大谷観音と大谷資料館のちょうど中間に位置し、国指定名勝「大谷奇岩群・御止山」の際を流れる姿川によって削られた奇岩の間に作られた、広い芝生が敷き詰められた公園です。

天狗の投石

天狗が投げて乗った石という伝説が残っています。天狗は大層「お餅」が好きだったそうで、ある時、天狗の奥さまが「だんご」を作ったら、天狗が怒って戸室山から石を投げたらここに落ちてしまったのか？これまでもよく落ちたものですが、現在は、ワイヤーなどで固定されています。

ホテル岩

地元では「ホテル山」と呼ばれています。アメリカ人の設計者フランク・ロイド・ライトが帝国ホテルに「大谷石」を利用しました。その石を掘り出した場所がこの山。大正12年9月1日の関東大震災の際に倒壊を免れたことから、一躍大谷石が有名になりました。現在一部が、愛知県の明治村に展示されています。



小野口家住宅

江戸時代から代々名主の家柄。大谷石採石場から近いので、多くの建物が大谷石で造られています。同じ敷地の中に様々な年代の石造建築が見られ、江戸時代末期・明治初期・明治後期の建築物、大正時代の石塀（一部平成18年）まであり、国登録有形文化財です。

多気山持宝院（多気不動尊）

弘仁13年(822)勝道上人の高弟・尊鎮法師が馬頭観音を本尊として堂宇を建立したのが始まりと伝えられています。建武2年(1335)宇都宮9代城主公綱公により、現在の本尊不動明王が氏家勝山城より遷座され、本尊は秘仏で一年に一度・八朔祭(旧8月1日-現在は9月1日曜日)にご開帳が行われ多くの人々で賑わいます。北関東36不動尊霊場第18番霊場としても多くの参拝客が参詣します。

大谷資料館

大正8年～昭和61年まで70年間かけて大谷石を掘り出して出来た巨大地下空間。その広さは延2万平方メートルにもおよび、野球場が一つ入ってしまう大きさです。坑内の年間平均気温は8℃前後で地下の大きな冷蔵庫といった感じ。戦争中は、地下軍需工場として、戦後は政府米の貯蔵庫として利用され、現在ではコンサートや美術展・結婚式にも利用されています。

カネホン採石場

現在も稼働中の露天掘りの大谷石採石場。安政元年頃より採掘されている大きな空間は、手掘りの跡が残っています。土曜・日曜・祝日は採石場の見学を受け入れており、ピザ・物づくり体験・大谷石アウトレット・宝探しなどで人気のスポットになっています。

平和観音

昭和23年より戦没者の慰霊と世界平和を祈念して、当時の大谷観光協会と地元有志によって、大谷石採石場の岩肌に見えぬ観音像が刻まれました。昭和26年には東京芸術大学の飛田朝次郎教授に引き継がれ、昭和29年12月に完成。昭和31年5月開眼供養が行われました。像高約27M(88尺3寸8分)。現在は大谷公園として整備され、多くの観光客が訪れています。

大谷寺（大谷観音）

縁起では、平安時代の弘仁元年(810)に弘法大師が本尊を刻んだと伝えられていますが、近年の研究では、奈良時代、鑑真和尚の弟子である如宝が関与したのではないかと説もあります。本尊・千手観音・釈迦三尊・薬師三尊・阿彌陀三尊の国指定特別史跡・重要文化財の摩崖仏(石仏)が刻まれています。その仏の下より、1万年前の土器や縄文土器が発掘されました。それらは宝物館で見学できます。坂東33観音霊場の19番霊場として、多くの参拝客が全国から参詣に訪れています。

屏風岩

大谷を代表する風格を備える屏風岩の2棟の石蔵(西蔵と東蔵)。対照的な造りの本格大谷石建築で、明治末期の建築です。個人宅で現在も使用中のため、蔵内は非公開となっています。敷地には立ち入らずに門の外から外観のみの見学をお願いします。県指定有形文化財です。